令和5年度 佐賀県農業大学校 評価表（実績）

資料 3

	Ø 高い技術力や経営力を備えた意欲的な農業者等の育成 Ø 農業・農村の発展に貢献できるリーダー等の育成	○達成度 A:十分達成できている（100%以上） B:概ね達成できている（100%未満～80以上） C:やや不十分である（80%未満～60%以上） D:不十分である（60%未満）
重点目標	1.優秀な入学者の確保 2.高い技術力や経営力の習得 3.全ての学生の進路決定 4.農業者研修の充実	

目標	評価項目	令和5年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 優秀な入学者の確保	○受験者数	・受験者30名以上	・農大の情報の発信 ・各機関・団体への周知 ・農業系高校等との連携強化	・受験者数は、41名であった。 推薦24名、一般（一次）14名、一般（二次）3名 ・広報誌「緑旗」を年2回発行し、農大の動きや行事を紹介した。 ・JAバンク佐賀の提供により、「農業するばい!!さが農大RADIO」というラジオ番組を持ち、年間を通して、学生が出演し、学校を紹介した。（24回／年） ・収録した番組をYoutubeチャンネルに掲載して、いつでも聞くことができるようにした。 ・佐賀県農業大学校のYoutubeチャンネルに、実習風景、施設紹介、スポーツ大会など8本の動画を掲載した。現在、合計47本の動画を掲載している。 ・NOSAI佐賀機関紙に在校生の紹介記事を掲載した。 ・入学式、オープンキャンパス、収穫祭、九州農大プロジェクト発表会のプレスリリースを行い、報道機関の協力を得て情報発信した。 ・JAグループの協力を得て、県内JAの事業所単位に加え、Aコープ・農機センター店舗まで、学校案内（学生募集やオープンキャンパスを掲載）を配布した。 ・市町、振興センターに学生募集の記事掲載を依頼し、全振興センターと5市町の広報誌に掲載した。 ・6月14日に高校職員向けの募集要項説明会を開催した（9校参加）。さらに、過去5年に入学者がいる19校の高校を訪問して募集要項を手交し、その他の全ての高校にも募集要項、パンフ、ポスターを配布した。 ・県民だより10月号に学生募集の記事を掲載した。 ・5月23日に農業系高校長との懇談会を開催した。 ・6月14日に高校職員向けの募集要項説明会を開催した（農業系4校参加）。	A	・本科受験者（実数）32名中、県内の農業系高校出身者は20名であり、昨年より増加した。今後とも農業及び農業関連の進路を志す学生を多く確保できるよう、農大の情報発信、農業高校との連携に力を入れる。	

目標	評価項目	令和5年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 優秀な入学者の確保	○受験者数数		・農業系高校等との連携強化	・6～7月に農業系高校4校の進路ガイダンスに参加した。また、令和7年度入試に向け、11月、1月に進路ガイダンスに参加し、2月、3月にも参加することとしている。 ・11月14日に農業系高校に出張講義を行った。 ・9月22日に高志館高校、1月22日に伊万里実業高校の生徒に農大現場研修を行った。	A	・過去に農業大学校の受験者が少ない高校を中心に学校訪問を行い、学校案内、募集要項説明を行う。	
	○オープンキャンパスの参加数	・☑オープンキャンパス参加者40名以上	・農業系高校等との連携強化 ・農大の情報の提供 ・各機関・団体への周知	・オープンキャンパスは7月2日（日）と8月26日（土）の2回実施し、参加者数は58名であった。 ・午前中に全専攻を回って施設見学及び実習体験を、午後に在校生との交流を実施した。 ・5月23日に農業系高校長との懇談会を開催した（再掲）。 ・6月14日に高校職員向けの募集要項説明会を開催した（農業系4校参加）（再掲）。 ・6～7月に農業系高校4校の進路ガイダンスに参加した（再掲）。 ・JAバンク佐賀の提供により、「農業するばい!!さが農大RADIO」というラジオ番組を持ち、年間を通して、学生が出演し、学校を紹介した。（24回／年） ・収録した番組をYoutubeチャンネルに掲載して、いつでも聞くことができるようにした。 ・JAグループの協力を得て、県内JAの事業所単位に加え、Aコープ・農機センター店舗まで、学校案内（学生募集やオープンキャンパスを掲載）を配布した（再掲）。 ・市町、振興センターに学生募集の記事掲載を依頼し、全振興センターと5市町の広報誌に掲載してもらった（再掲）。 ・県民だより6月号にオープンキャンパス募集記事を掲載した。 ・FM佐賀、NBCラジオでオープンキャンパスの告知をした。	A	・高校への募集要項説明、進路ガイダンスにより直接受験生にオープンキャンパス参加を呼びかけるとともに、ラジオや広報誌、Youtubeチャンネルで農大の情報発信に力を入れる。	

目標	評価項目	令和5年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	**【施設野菜】** 〇IoT機器を活用した栽培管理技術の習得	・IoT機器が活用できる学生の育成 100%	・観察記録と栽培作業日誌の記帳確認 ・IoT機器の活用を前提とした栽培の理論と実際の環境制御技術の指導	・毎朝の観察と作業日誌記録によって、観察に基づいた管理の意識付けを指導実施。 ・環境測定機器の取り扱い方法の指導実施。 ・温湿度と植物の生育の関係を、実際の栽培を通じて指導実施。 ・週間天気予報を活用した環境設定の指導実施。	A	・農業系出身以外の学生が多くなっているために、植物の生理生態に関する知識や基本的な生産技術を早期に習得させ、品目・作型に適した栽培管理の実践に取り組ませる。	
	〇経営能力の向上	・担当する品目の所得の把握ができる 100%	・作型毎の作付け計画の作成指導と進捗管理 ・経営記帳の指導	・プロジェクト課題設計検討会と中間検討会を実施し、課題の進捗状況を把握し、効率的・効果的な研究に取り組めるよう指導を実施。 ・プロジェクトで取り組む野菜品目での収量・品質・経費等の記録指導。 ・プロジェクト課題のとりまとめにおいて、所得を算出させた。	A	・新技術の修得のために、基本技術や知識の早期習得と環境制御に基づいた栽培管理の実践に取り組ませる。	
	〇GAPの実践を通したよりよい施設園芸の実践	・GAPを実践できる学生の育成　100%	・施設野菜の実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方、実施方法を、講義・実習で指導実施。 ・使用資材・機材の整理・整頓の実施指導。 ・使用資材の使用履歴の記帳指導。	A	・GAPについては継続して出来るところから取り組みを増やす。	
2 高い技術力や経営力の習得	**【露地野菜】** 〇栽培管理技術の習得 ・播種から収穫までの栽培管理技術の習得 ・先端技術を活用した管理技術の習得	・到達した学生の割合 100%	・播種から収穫まで一連の基礎知識及び栽培技術の習得 ・学生による栽培計画書及び栽培暦の作成指導 ・先進技術を活用した管理作業の指導	・露地野菜の基礎的な生理生態、基礎知識と管理技術を指導した。 ・一連の作業を説明、実践し、管理・観察日誌等で理解度を確認し、理解度に応じた指導を実施した。 ・プロジェクト品目については栽培計画書を作成させ、管理作業の実践と技術習得を図った。 ・ピッカーによるタマネギ収穫を実施し、収穫作業の省力化について学習させ、タマネギの機械化一貫体系について理解を促した。	A	・農業系高校出身以外からの学生が多くなってきているため、野菜の生理生態、基礎技術を早期に習得させる。	
	〇GAPの実践を通したよりよい露地野菜栽培の実践	・GAPを実践できる学生の育成　100%	・露地野菜の実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方に基づいて、使用資材等の整理整頓や用途による使い分けを実践・指導した。	A	・GAPについては継続して出来るところから取り組みを増やす。	
	〇農業機械の基本操作と維持管理方法の習得	・一連の作業を機械で操作できる学生の割合　100%	・農業機械の操作指導 ・農業機械の仕業点検方法の指導	・トラクター、管理機、草刈機等の操作指導を行い、全学生が全ての農機の基本操作ができるようになった。 ・農業機械の点検を実施し、オイル交換等の基本的な管理ができるようになった。	A	・農業機械の操作経験がない学生が多くなってきているため、事故等の危険性を理解させ、安全に操作することを徹底する。	

目標	評価項目	令和5年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	【農産】 〇栽培管理技術の習得 ・播種から収穫・乾燥調製までの栽培管理技術の習得 ・スマート水田農業機械の操作習得	・スマート水田農業機械が活用できる学生の割合　100%	・播種から収穫まで一連の基礎知識及び栽培技術の習得 ・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認 ・スマート水田農業に関する知識の習得 ・スマート水田農業機械を活用した水田作業の指導	・各自のプロジェクト課題を進める中で、栽培計画に基づいて米・麦・大豆の播種から収穫、乾燥調製まで一連の作業を体験させ、認識を改めさせた。また観察や気づきなども日誌に記録させ、理解度を向上させた。収量や品質と経費なども計算させ、コスト意識についても目を向けさせた。 ・スマート農業機械については、それぞれの機械の特性を理解させ、圃場における操作や運転を体験させた。すべての学生がGPSトラクター、GPS田植機、GPS収量コンバインを操作する事が出来た。 またオープンキャンパス時には、学生自らが参加高校生にスマート農業機械の操作や機能を伝えるなど、習得した知識や運転技能について習熟度を向上させることができた。 ・農業用ドローンについても全ての学生に長所・短所を理解させることができ、さらに新規に6人の学生がドローンの操作免許を取得した。	A	・農業系高校出身以外の学生が多くなってきているために、水稲、麦類、大豆の生理生態に関する知識や基本的な生産技術を中心に技術習得を図り、単身単独でも営農できるように取り組ませる。	
	〇農業機械の基本操作と維持管理の習得	・一連の作業が機械で出来る到達学生の割合100%	・農業機械の操作指導 ・作物栽培と連動した機械作業の習得指導 ・機械作業ポイントの作成と他学生への説明会の開催	・機械の基本操作及び圃場作業マニュアルに基づき、農業機械の操作を実践させ、全ての学生が水田で必要な機械の基本作業を安全に操作できるようになった。 ・また大型特殊（農耕車）免許及び、けん引（農耕車）免許を全員取得した。 ・専攻内で機械操作について、各自が気を付けているポイントを整理し、各自の操作スキルの向上に努めた。	A	・トラクター、コンバインなど農業機械の操作経験がない学生が多くなってきているために、「安全に!」を原則に主要農業機械の操作習得に取り組むとともに、習熟度の向上も図っていく。	
	〇GAPの実践を通したよりよい米・麦・大豆栽培の実践	・GAPを実践できる学生の育成　100%	・作物の実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方、実施方法の一部を実習内で指導した。 ・また作業機材及び肥料・農薬などの整理・整頓や使用履歴の記帳についても指導した。	A	・引き続き、GAP意識を高めるため、取り組みを継続する。	

目標	評価項目	令和5年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	**【果樹】** ○主要常緑・落葉果樹の栽培技術の習得	・到達した学生の割合100%	・主要常緑・落葉果樹の生理生態理論について指導 ・果樹の高品質・安定生産技術の指導 ・最新の栽培技術の講義及び指導 ・県育成品種「佐賀果試35号」等の新品種栽培技術の指導	・各樹種における生育ステージ毎の理論を講義し、実習終了時に気づき及び感想を整理させることで習熟度を向上させることができた。 ・品目毎に栽培管理計画書を作成指導し、担当品目は生産から販売までの一貫した流れを理解させた。 ・プロジェクト課題等については、果樹試験場と連携し課題解決につなげることができた。 ・温州ミカン「佐賀果試9号」や「佐賀果試35号」の技術習得のため、施設・露地圃場に定植し、栽培技術及び生育特性を理解させた。	A	・県育成品種の栽培特性を理解させ、今後に役立てるような技術等を習得させる。	
	○スマート農業に関する知識の習得	・到達した学生の割合100%	・AI技術を取り入れた栽培管理技術の習得 ・省力栽培技術の習得	・AIによる肥培管理システム及び温湿度観測装置を利用した栽培管理法を指導し、学生全員がスマホ上から状況を確認できるようにしたことで、こまめにデータを確認する習慣がついた。 ・ロボット草刈り機及びスピードスプレイヤーを活用し、効率的な圃場管理作業を習得させた。	A	・AI技術についてはさらに栽培管理への応用を進める。	
	○経営能力の向上	・果樹経営特性を理解 到達した学生の割合100%	・果樹経営特性の理解 ・GAPに取り組む	・担当品目の労働時間、使用資材、収量、販売金額等についての記帳を指導し、売り上げと経費との関係を認識させた。 ・プロジェクト課題等においては、試験結果を検証し経営改善点を整理させた。 ・ブドウを対象としたJGAP取得に向け、学生を中心に圃場及び倉庫等の整理整頓を実践し、12月19日に初回審査を受けることができ、1月15日付けで認証取得した。	A	・AI潅水を利用した温州ミカン根域制限栽培については卒論の課題として引き続き取り組む。 ・JGAP認定後は継続審査に向けて引き続き取り組みを継続する。	

目標	評価項目	令和5年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	【花き】 〇花き栽培に関する基礎知識の習得	・主要花きの育苗から収穫までの一連の栽培技術の基礎的知識を習得した学生の割合　100%	・主要栽培品目の、播種、育苗から栽培、収穫まで一連の生態、栽培管理の基礎知識及び栽培技術習得 ・作業日誌の記帳確認 ・新規品目作付けへの取り組み ・農業技術防除センターや農業試験研究センター等からの卒論プロジェクト課題に関する情報提供等の支援	・キク、バラ、カーネーション、シクラメン等、主要品目の基礎的な生理生態、基礎知識及び栽培技術を習得させた。 ・上記品目の播種から栽培、管理、収穫まで一連の作業を解説、実践した。後日、試問や作業日誌等での理解度の確認を行った。理解度に応じた個別指導を行った。 ・スターチス等の新規品目作付けのため知識習得及び切り花品質向上と開花調節に取り組んだ。 ・関係機関（農業技術防除センター、農業試験研究センター、農業振興センター）と連携し、卒論課題は地域課題一つであるシンテッポウユリの秋出荷に取り組んだ。	A	・引き続き、主要品目の基礎知識や栽培技術、新規品目の技術を習得させる。そのため、作業日誌等を利用しながら指導を行う。また、関係機関と連携し、情報提供や卒論の指導を行う。	
	〇花きの品質保持及び6次産業化の加工についての技術習得、流通及び販売知識の習得	・品質保持及び加工技術の習得した学生の割合　100%	・収穫後の花きの鮮度保持技術、フラワーアレンジメントなどの加工技術の習得 ・加工品目の市場評価	・収穫後の品質保持技術の知識及び技術を取得させた。 6次産業化の取り組みとして、加工（染色、フラワーアレンジメント、加工品）等の技術指導を行い、技能検定3級（フラワー装飾）を取得させた。また、直売や収穫祭を通して消費動向調査を調査した。 ・染色した切り花の市場評価を行った。	A	・品質保持技術や加工技術を習得させ、販売単価向上へ繋げる取り組みを行いたい。	
	〇GAPの実践を通したよりよい花き栽培の実践	・GAPを実践できる学生の育成　100%	・花きの実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方、実施方法を、講義・実習で指導した。 ・使用資材・機材の整理・整頓を指導し、実践させた。 ・使用資材の使用履歴の記帳を実践させた。	A	・引き続き、GAP意識を高めるため、取り組みを継続する。	

目標	評価項目	令和5年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	**【畜産】** 〇繁殖生理の学習と繁殖技術の習得	到達した学生の割合100%	・家畜の性周期、発情兆候の理解 ・家畜人工授精技術の習得及び技術の向上	・繁殖牛発情観察記録表への記入を実施させた。 ・繁殖牛の分娩前観察及び分娩介助を実施させた。 ・家畜人工授精師資格を全員取得できた。また、知識と技術の習得もできた。 ・家畜人工授精を指導し、実践させた。 ・ICT機器活用による繁殖牛の管理を実践させた。	A	・免許取得者については、AIを実践させ技術の習得に努める。 ・令和7年度のAI講習会に向けて知識と技術の習得に努める。	
	〇家畜栄養の学習	到達した学生の割合100%	・飼料給与技術の習得 ・各畜種（乳牛、種雄牛、豚）の飼料給与技術の習得	・ 飼料給与基本プログラムに基づいた飼料給与の実践し、発育状況把握のための毎月体測を実施することで飼料給与と発育の学習ができた。 ・子牛の発育状況などを確認させるため、子牛セリに参加し、他の出荷牛との比較をさせた。 ・ 畜産試験場での実習実施したことで、飼料給与技術の習得をさせた。	A	・引き続き、技術の習得に向けた取り組みをする。	
	〇家畜ふん尿処理及び利用技術の学習	到達した学生の割合100%	・糞尿の堆肥化処理技術の習得 ・発酵舎などを利用した堆肥処理方法の学習 ・堆肥の散布技術の習得	・堆肥舎での関連作業機械を操作と堆肥化処理技術を習得させた。 ・畜産試験場での実習時に学習させた。 ローダーやマニアスプレッタ等の作業機械を用いた圃場散布作業を実施し、技術を習得させた。	A	・引き続き、技術の習得に向けた取り組みをする。	
	〇飼料作物栽培の学習	到達した学生の割合100%	・飼料作物生産技術の習得 ・作業機械操作技術の向上	・夏作、冬作の飼料作物を栽培し、生育状況の観察させ、追肥や収穫時期を学習させた。 ・作業機械を用いた耕起、施肥、播種、収穫、調整作業を行い、技術を習得させた。 ・飼料作物収穫後再生させ、複数回の収穫を行わせた。	A	・引き続き、技術の習得に向けた取り組みをする。	
	〇管理能力の向上	到達した学生の割合100%	・GAPに関連した知識の習得	・GAPに基づいた記帳や整理整頓を実践し、管理環境を改善させた。	A	・引き続き、GAP意識を高めるため、取り組みを継続する。	

目標	評価項目	令和5年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	**【農産加工】** 〇農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得 ・穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術の習得	到達した学生の割合 100%	・食品衛生及び野菜・果実・穀類等を使った食品加工に関する基礎的な知識・技術習得のための演習の実施 ・農産物の食品加工技術及び商品づくりの基礎知識、包装・ラベル作成等を習得するための演習の実施 ・漬物、惣菜、ソース、菓子、製粉・乾燥・レトルト等の加工等演習の実施	・食品衛生、米粉加工や動物性食品等の講義を実施し、基礎的な知識を習得させた。 ・シーラー機や蒸気回転窯等の加工品製造に必要な機械を操作させ、衛生と安全に配慮した加工技術を習得させた。 ・食品表示、ラベル作成や直売会の準備から販売等を通して、商品づくりの知識を習得させた。 ・トマトソース、ソーセージやシフォンケーキ等、1年生は11品目、2年生は17品目の1次加工品と2次加工品を製造させた。 ・全ての学生が基礎知識を身につけ、機械の操作ができるようになった。	A	・安全、安心な商品づくりをするために、食品衛生についての知識、理解を深め、衛生環境を適切に保つための取り組みを強化する。	
	〇学生発案によるオリジナル商品の開発、定番化	開発、定番化商品 1商品以上	・農産加工研究会(学生の自主組織)への指導 ・直売での販売動向の把握及び分析	・農大産の農作物を使用して5品の試作研究を行った。そのうち、3品目は、さらに試作研究を重ね、令和6年度に商品化予定である。	A	・農大オリジナル商品の製造から販売までを経験させ、食品ロスや6次化への理解を深めさせる。	
	【資格等の取得向上】 〇カリキュラムの中で必要な資格取得	資格合格率100% ※大型特殊免許、けん引免許等 選択性の資格の合格率 50%以上 ※農業技術検定、危険物取扱者、家畜商、フォークリフト、狩猟免許等	・研修の充実	・必須の免許・資格の取得(100%) ・農耕用大特免許 28名(1名は受験資格なしのため、受験せず) ・農耕用けん引免許 27名(1名は受験資格なしのため、受験せず) ・家畜人工授精師 7名 ・選択性の免許・資格の取得状況(55%) ・農業技術検定2級 2名 ・農業技術検定3級 7名 ・危険物取扱者 6名 ・毒劇物取扱者 1名 ・フラワー装飾技能士3級 2名 ・農業用ドローン 7名 ・アーク溶接 6名 ・ガス溶接 1名 ・狩猟免許 4名 ・家畜商 7名 ※フォークリフト、小型車両系建設機械は3月に実施 ・毒劇物及び危険物取扱者試験の対策として、「農業と科学」の教科の中で講義を行った。 ・また、毒劇物取扱者試験前に8回、危険物取扱者試験前に7回の特別講義(5校時に補講)を行った結果、危険物取扱者の合格者は6名(昨年度は1名)と増加した。	A	・引き続き、希望進路に合わせた免許・資格の受験を促進し、免許・資格が取得できるよう指導を行う。 ・特に、危険物取扱者、毒劇物取扱者は難易度が高いため、本年度実施したように危険物取扱者試験に重点を置いた指導を行い、試験前の特別講義を行う。	

目標	評価項目	令和5年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
3 全ての学生の進路決定	○就農・就職決定率	・就農・就職率 100%	・就農・就職指導の強化	・就農・就職決定率は、100%となっている。 （29名全員が決定） ・2年生は5月に10日間、1年生は10月に14日間の先進農家派遣研修を実施した。 ・進路指導専任職員（会計年度任用職員）を1名配置して、情報収集及び提供、面接前の指導を行った。 ・ジョブカフェSAGAから講師を招聘し、1年生2回、2年生5回のキャリアプランニングの講義を行った。 ・7月に県内農業法人の会社説明会を開催した（3社が参加）。 ・1月に本県で開催した九州農大プロジェクト・意見発表会に学生全員が参加した。	A	・引き続き、将来目標を早めに設定するよう、早期に就農・就職指導等を実施する。 ・雇用就農を希望する学生には、農大に求人を出している農業法人とのマッチングを考慮して先進農家派遣研修を行う。	
4 農業者研修の充実	○大型特殊(農耕車)、農耕用けん引の免許取得	・免許合格率：95%以上	・受講生がより理解しやすよう指導方法を工夫 ・改正内容(担い手を優先)に基づく研修の適切な実施	・試験コースの模範走行の動画を農大のHPに掲載し、研修時間以外にも、動画を視聴して予習・復習することで理解を深めることが出来るようにした。 ・今年度、会計年度職員1名を増員したことで、技術取得に最も苦労する「方向転換」の地点に職員1名を配置して指導することが可能となり、方向転換での渋滞が緩和され、実技研修全体をスムーズに進めることが出来るようになった。 ・今年度から、地域の担い手が優先して研修を受講できるように実施要領を改正した。申請窓口を担う市町には、農業者への説明や願書添付資料の取得等、適切に対応いただいている。また、各研修の受講者調整についても、受講希望者の個別の状況を確認するなどして適切に対応いただいている。 ・大特　免許合格率100%(再試験による合格1名) ・けん引 免許合格率100%	A	・現在の研修体制を継続し、受講生が理解しやすい指導方法の実践を図る。 ・高齢になるほど、技術取得に時間を要する傾向にあるため、技術取得が遅い受講生に対しては、職員間で情報を共有し、連携して指導に当たり、必要があれば補習を行うなどして対応する。	
	【さが農業経営塾】 ○受講者数	・受講者数 （定員の確保） 10名	・農業士、青年農業士、女性農業者、農業青年クラブ員、農業法人協会会員、過去の受講者、市町、JA青年部等への周知	・受講生募集の周知期間を長くとるとともに、農業振興センターに農業士、青年農業士、農業青年クラブ員等への周知について協力を依頼。グループライン等のSNSを活用して広く周知を行い、受講者の確保に努めた。 また、農業法人協会会員、過去の受講者等へ周知を図るとともに、新聞やHP等を活用した情報提供を行い、目標の10名を確保した。	A	・今年度でさが農業経営塾は終了するが、今後、経営に関してどのような支援方策が必要かを農業経営課と検討する。	

目標	評価項目	令和5年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業者研修の充実		・受講者の満足度 80%以上	・受講者へのアンケート調査の実施 ・運営委託業者と調整	・アンケート調査を毎回実施し、受講者の満足度や理解度を把握するだけでなく、講義に対する要望の聞き取りも行い、研修内容を適宜調整した。 第1回～第9回までのアンケート結果は、全員が「大変良かった」又は「良かった」との回答となっており、満足度は80%以上だった。	A	・今年度でさが農業経営塾は終了するが、今後、経営に関してどのような支援方策が必要かを農業経営課と検討する。	
	【農産加工支援研修】 〇受講者数	・受講者数の確保 2講座　10組	・農業青年クラブ員及び女性組織等への周知	・農業青年クラブに対しては、会議の際に周知した。 ・女性組織等に対しては、振興センターへ周知を依頼し、女性農業者研修会の参加者や普及課題の重点支援対象者等に紹介いただいた。 ・その他、プレスリリースを行い、広く周知した。 ・基礎研修 8名　・応用研修 2組（3名）	A	・振興センターや農村ビジネスサポートセンターと接点があり、六次化に関心のある農業者は、既に受講済みの方が多くなってきた。次年度は、より多くの方の目に留まるようチラシ等を作成して、市町や直売所等を通じて周知する。	
		・受講生の理解度 80%以上	・6次産業化の基礎的な知識・技術に関する講義・演習の実施	・農産加工に関する法律、原価計算・売価計算、食品表示制度等、農産加工の基礎的な知識習得のため、専門家を招聘して講義を実施した。 ・また、基礎的な加工技術を習得するため、ラベルの作成やスチームコンベクションオーブン等の加工機械を使用した演習を実施した。 ・先進事例調査では、アスパラガスの生産から加工、販売、カフェ経営まで行っている農業者を視察し、受講生の満足度は高かった。 ・毎回、アンケートで理解度を調査した。その結果、講座内容を概ね理解した受講生は80%以上だった。	A	・ラベル作成の講義では、デザインの予備知識が無い上、商品のコンセプトが明確でなかったため、ラベルの完成に時間を要した。 ・次年度は、実践的演習ではなく、売れる商品にするための基礎的なデザインの知識について講義を実施する。	
		・受講者1人（組織） 商品化を目指した 1品目以上の試作	・商品づくりと試作研究への指導 ・新商品開発能力を高める試作研究への指導	・応用研修の受講者に対して、コンセプトやターゲットを聞き取り調査し、内容に合わせて専門家を招聘した。 ・2組ともに1品目の試作を1月までに2度行った。	A	・次年度は、基礎・応用の区分をなくし、商品開発に関する講義及び試作から加工までの実習を実施する。より高度な研修が必要な場合は、さが農村ビジネスサポートセンターと連携し、実施する。	

目標	評価項目	令和5年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業者研修の充実	○農業者組織(農業青年クラブ)活動の活性化	・研修に対する満足度80%以上	・農業青年クラブ員を対象とした各種研修等の実施 ・参加後の聞き取り調査等の実施	・役員理事会は現地参加とZoom参加のハイブリッド形式で月1回程度開催し、毎回半数以上が出席した。 ・各部会の会議は、基本的にZoomで開催し、各行事に向けて内容や講師選定の打ち合わせを各部5回程度行った。 ・佐賀県青年農業者会議は、台風により中止になった。(8月) ・さが農業力向上セミナーは、12月に開催し、クラブ員24名、関係機関等11名が参加した。セミナー後、アンケートで満足度を調査した。その結果、概ね満足した参加者は、80%以上だった。(11月) ・農業青年冬季のつどいは、2月に開催した。クラブ員に発表の意義を伝えるため、新たに県内外の受賞者に発表してもらう取組を行い、意識醸成を図った。(2月) ・九州、全国の活動に参画した。 (九州・沖縄地区) ・代表者会議・第1回会長会議(5月、2名) ・青年農業者会議・第2回会長会議(7月、32名) ・次年度開催県研修(9月、1名) ・臨時会長会議(9月、2名) ・九州農政局長と語る会・リーダー研修会・第3回会長会議 (11月、4名) (全国) ・総会・会長会議・リーダー研修会(7月、3名) ・第2回会長会議・リーダー研修会(11月、2名) ・農業青年交換大会(1月、3名)	A	・次年度から冬季のつどいの発表者の選出方法が変更となる。発表者数が減少するため、代わる企画を計画するなど開催方法を工夫する。 ・次年度、70周年記念大会の実行委員会を設立する。大会の成功に向けて、他県の情報収集等行い、検討を進める。 ・九州、全国への活動にクラブ員を派遣し、交流の場や視野を広げるよう促す。	
	○農業者組織(青年農業士)活動の活性化	・研修に対する満足度 やや満足以上の割合80%以上	・青年農業士を対象に各種研修会の開催(参加しやすさを考慮して企画) ・参加者へのアンケート調査実施	・各種研修会 ・農業士との合同研修 (7月、12名) ・全体会 (1月 11名) ・県外研修への派遣 2名 (11月、1月) ・研修後に参加者へのアンケート調査を実施。(1月)その結果、研修評価は、参考の有無で「参考になった」及び「少し参考になった」の割合が9/11名で、80%以上だった。	A	・県全体の先進地視察研修は出席者が減少傾向なので、全体会等の出席しやすい研修会を工夫して開催する。	

目標	評価項目	令和5年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業者研修の充実	○農業者組織(農業士)活動の活性化	・研修に対する満足度 やや満足以上の割合80%以上	・農業士を対象とした各種会議・研修会の開催 ・さが農業女子サミットの開催 ・参加後の聞き取り調査等の実施	各種会議を次のとおり開催した。 ・役員会議 4回（5月、9月、11月、2月） ・佐賀県内JA代表者との意見交換会 （11月） ・県農政関係課長との意見交換会 （2月） 各種研修会を次のとおり開催した。 ・青年農業士との合同研修会（7月） ・さが農業女子サミット(女性全体研修会)（11月） 各部会活動 （７部会）を次のとおり実施した。 ・農産部会研修会（8月、2月） ・果樹部会研修会（9月、3月予定） ・4部会（野菜、果樹、特用作物、農業・農村活性化部会）合同研修会（1月） ・畜産部会研修会（3月予定） ・花き部会研修会（3月予定） 各種研修会・会議への参画 ・全国農業担い手サミットinさが実行委員会　2回 ・全国農業担い手サミットinさが幹事会　3回 ・九州・沖縄農業士研修会（宮崎県・10月） ・佐賀県・長崎県農業士合同研修会(長崎県・1月) ・指導農業士全国研究会（東京都・1月） ・九州農政局幹部と九州・沖縄各県指導農業士との意見交換会(熊本県・2月) ・研修後、満足度などについて聞き取りを行い評価するとともに、次回開催のための反省点とした。	A	・会員全員を対象とした研修会等への参加率が低い。 ・各部会とも積極的に研修会を開催しているが、参加率が低い。 ・組織活動の活性化及び研修等の満足度向上を図るため、魅力のある内容に検討を行う。 ・九州や全国の農業士との連携についても継続して取り組んでいく。	